

送
り
先

MB (北陸) システム営業課 御中	丸善 (北陸) 営業課 御中	陸支 営業企画部	陸支 公共ビルシステム部
七宝 システム事業部 御中	NES 情報システム課 御中	(富山) 電力部	(金沢) 半導体・電子デバイス部
JMC 営業課 御中	北菱 情報機器課 御中	FAシステム部	FAシステム部
エム・アイ・エス 御中	MCC (北陸支所) 御中	公共ビルシステム部	電子・情報通信部

陸支 (富山) コ課



陸支コ課 情報

N o 3 1

内容

- ・ 陸支コ課情報の発行方法変更について
- ・ O A 化について 第六回
- ・ 情報誌トピックス — 情報誌は発行責任者保管
 - 日経コンピュータ 4 月 1 7 日号
 - 日経エレクトロニクス 4 月 2 4 日号
 - 日経パソコン 4 月 2 4 日号
 - 日経オープンシステム 4 月号
 - A S C I I 5 月号
 - S U P E R A S C I I 5 月号
 - 月刊 P C 5 月号
 - D O S / V m a g a z i n e 5 月 1 日号

ソフトウェアは SRC へ！
キャンペーンも随時実施中
詳しくは SRC ニュースを

発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社
電子・情報通信部 コンピュータ課
稲崎義明

陸支コ課情報の発行方法の変更について

陸支コ課情報も昨年2月の発行から今回で1年2ヶ月、31号を迎えました。その間いろいろと内容の充実等をはかり、現在北陸社内を始め、販売会社、本社、シ電など17ヶ所への配布をおこなってきましたが、北陸社内の電子メールの実施という状況の変化への対応と、より迅速な情報の提供をおこなうため、発行方法の変更を次回から行いたいと考えています。

・発行方法の変更

発行間隔は現行の2週間を変更しません。

発行形式を、現行と同様の内容のものと、雑誌の発行日（入手日）や新製品の広報発表日にあわせた速報版の2種類とします。

発行は、現在のコピーしたものの配布から、電子メールによる配布に変更します。ただし、電子メールの利用できない販売会社等については、現行通りのコピーによる配布とします。

速報版は電子メールによる発行を基本としますので、販売会社への配布は現行と同様の内容のもののみとなります。ただし、希望によりましてFAXでの発行も検討していますので、ご要望があればお知らせください。

速報版は、雑誌などの発行日にあわせた「情報誌トピックス」が中心となります。これまでの発行では、入手から10日以上もたった雑誌の内容では情報としては古くなることもありましたが、その点の改良をはかるものです。また、新製品情報についても、同様に速報版の発行を行います。

従来通り2週間ごとの発行はそのまま続けます。内容としては特に変わりはなく、速報版を集約したものと特集記事となります。

・陸支の部長の方々へのお願い

発行方法の変更によりまして、北陸支社内への発行は電子メールを全面的に利用いたします。そのため、部長の方々の端末に速報版と従来版のA1ファイルが電子メールで送られてきますので、必要に応じて印刷出力をしていただいでの部内への回覧をお願いいたします。また、必要がなくなった場合には、電子メール内のファイルの削除をお願いいたします。

ご要望があればお知らせください。配布方法、配布自体についても個々に対応いたします。

発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社
電子・情報通信部 コンピュータ課
稲崎義明

5. O A 化の推進について

O A 化は、一般の会社でコンピュータが用いられるようになってからずっと言われ続けています。LANの登場によって一層言われるようになってきましたが、その実態は大企業を含めて実質的にはなかなか進んでいないのではないのでしょうか。事務作業の自動化として、経理処理、給与処理などがコンピュータ化されていますが、LANが導入されても、入力したデータに対して決まった帳票出力を行う処理が中心で、それ以外の作業についてはワープロを除いて、なかなかコンピュータを有効には利用されていません。LANを活用したO A 化はどのように推進していけばよいのでしょうか。

LANを中心としたO A 化は、その目的の中心を、これまでの業務処理システムで收拾したデータの活用だけでなく、コンピュータによるコミュニケーションの推進と、それによる業務処理の円滑化におくようになってきています。コミュニケーションに活用するためには、1～3人に1台程度のパソコンの配置が前提となります。この程度のパソコンの数でなければ、事務処理に全面的に使うことができないからです。自分のパソコンとして使わなければ、せつかくのシステムが十分に利用できませんし、操作が日常的にもならないため、実際には用いられないシステムになってしまいます。自由に使える、常に電源が入っていることが重要なのです。現在の価格低下によって、50台のクライアントにサーバを1台導入した場合でも、約1000万程度の投資ですから、その効果が明確にできれば、導入してもらえる水準になってきたのではないのでしょうか。

LAN導入のポイントは、各種業務処理システムのデータの活用と、コミュニケーションへの活用にあります。各種業務処理システムのデータは、主にオフコン上にあるものですが、昨今の各社のオープン化への対応によって、大体のデータはパソコン上へダウンロードすることが可能で、クライアント上でEXCELなどで加工することが可能となってきています。しかし、可能とはなっていますが、ユーザがそこまでの加工が可能であるかどうかは疑問のあるところですから、LANを販売する場合は、デモの実施だけでなく、ユーザの教育、EXCELなどのマクロの作成、マクロ作成のフォローなどを行う必要があります。つまり、できるといっても、実際にある程度作り込むことが販売する場合には必要であるということです。これまでは、いろいろなことができますと言ったの販売はありましたが、なかなか使用するまでのフォローまではなされていなかったのではないのでしょうか（重要顧客についてはこれまでもなされていたでしょうが）。販売するためには教育までを含めることが重要となるのではないのでしょうか。

これまでのシステムとの連動以外に、これからは電子メールなどのグループウェアがO A 化のなかで重要になってきています。個人で使えるような状態になって、グループウェアは使えるシステムとなるものです。個人に電子メールが来ていても開くパソコンがなければ、有効には利用できません。会議室の予約、機器の管理予

約、掲示板などもLAN上であればいろいろと有効なものとなります。販売する場合にも、自分で使ったことのないものを販売することはユーザに実感を持たせられないものではないでしょうか。そのためにも、実際に進んで使ってみることは重要ですし、LANを販売するところでLANのシステムを導入することは必要なことではないでしょうか。電子メールは、なかなか日本に根付かなかったものです。これまで受け入れられなかったものをもって販売することは大変ですが、販売できるのはこれからです。電子メールは、不在がちな営業に対して伝言するには便利なものです。特に、外部からLANへアクセスできるようになっていれば、メッセージの交換は確実に、ビジネスチャンスを逃すこともなくなります。そばに常にいる人達の間では、電子メールは無用の長物なのかもしれませんが、営業や向上ないで建物が離れている場合など、LANはその間で連絡を取り合うのに有効な手段となるのではないのでしょうか。しかし、これも使うようになってからの活用です。使い方のアドバイスはできるかもしれませんが、実際の使い方は使う人によるものとなると思います。また、各種予約システムなども、LAN上であればこれまでのノートとは違ったいろいろな使い方ができるのではないのでしょうか。

LANを導入する場合、サーバ管理者が必要だと言いながら、これまではだれか入れれば十分ですとやってきました。しかし、小数の人が使っていた場合はそれでも十分でしたが、多数の人がサーバを使う場合、サーバ管理者の管理能力が重要となってきます。ユーザの登録などのほかに共通で使用する資源の管理が必要です。始めはあまり用いられていないログインのパスワードも、外部との接続を想定する場合は必要となりますし、個々にアクセスできる部分を限定することも必要となります。たくさんの人が使う場合は、いろいろな限定をつけなければ混乱することもありますから運営は重要となります。サーバのディスクなどは共通資源ですが、条件を付けなければどれだけ大容量でもすぐにいっぱいになってしまいます。ディスク容量は、個々に使える領域を制限し、共通ファイルは共通のディスクに置くことが必要です。また、共通ファイルと個人ファイルは明確にし、共通で用いるものは極力共通ファイルに置き、有効に使うなどの規定をつくることも必要ですし、個人的なファイルでも、不要なファイルは削除を奨励し、状況に応じて管理者が削除を行うなどの管理が重要です。管理がうまく行かなければ、サーバは単なる大きなディスクとなってしまいます。

LANシステムは、これからが北陸での普及期ではないのでしょうか。いろいろとこれまでとは違った販売方法を検討する必要がありますが、使い方やEXCELのマクロの作成などのサポート等を行うことによって、十分に販売で聞く環境になってきていると考えます。

六回にわたっての連載でしたが、内容が支離滅裂で申し訳ありません。ただ、これからLANシステムは十分に販売拡大が可能となってきていると考え、連載を行いました。価格破壊によって販売方法も考え直す必要があるように思いますし、サーバ管理者の役割も重要になってくるといこともおぼえておく必要があると思います。考え方の一つとして読んでいただければと思います。

(情報誌トピックス)

○経産省コンピュータ 4月17日号

特集 1768社にみるオープンシステム導入実態

大きい不安、高い満足度

→大手企業の大半はオープンシステムの導入には消極的だが、導入した企業はおおむね満足している。満足を高めるポイントを「開発・運用技術」、「コスト」、「現行システムからの移行」の三つの面から検証する

ソリューション最前線 第一回：都市銀行

様変わりする営業店システム、データベースで個人顧客開拓

○経産省コンピュータ 4月24日号

特集 100GバイトHDDの実現技術

→3.5インチ型HDDの容量は2000年には100Gバイトに達する。技術的にはメドが立っているが、鍵は読み出しヘッド

1部 <高密度化の道筋>

GMR（巨大磁気抵抗効果）ヘッドの利用で、10G～100Gバイトの製品が射程に

2部 <GMRヘッド技術>

先ずは作りやすい簡易構造膜で、2～3年後から製品搭載が始まる

3部 <記憶媒体の高密度化技術>

低雑音媒体の開発が進み、ゾーン・テクスチャも実用にメド

特集 パソコン用カメラ向けCCD登場

→パソコンで画像処理を行うことが増え、パソコン用カメラ用CCD型固体撮像素子がぞくぞく出てきている

1部 <CCDメーカーの期待>

新市場開拓をねらって、パソコン向けに製品投入

→パソコン入力用として640×480にしたCCDが製品化

2部 <製品サーベイ>

ビデオ会議にはカメラ一体型用CCDで対応できる

技術 <コンピュータネットワーク>

Interop '95で次世代LAN製品が競演

→製品化で先行する100BASE-T、企業連合で巻き返す100VG-AnyLAN、標準に返り咲いたATM25の三つがLAN市場で競う

<マルチメディア>

価格性能比の高いビデオサーバ設計法

→米IBMのビデオサーバの設計法の紹介

<ソフトウェア開発>

プロジェクトを成功に導く測定手法

→プロジェクトを成功させる定量的な進行管理について解説

○経済誌 4月24日号

特集 最新日本語入力ソフト 120%活用法

A T O K 9、V J E - D e l t a、W X Ⅲの実力を探る

プログラム 高機能化と大規模化が進む

→比較3製品の紹介

Part1 変換処理編

A I 変換の「賢さ」を使いこなそう

→A I 変換のしくみを理解し、限界と効果的な使い方をみる

Part2 環境設定編

操作性と環境設定を総点検

Part3 辞書活用編

辞書にこだわる

・日本語入力ソフト主要製品一覧

レポート '94ベストセラーソフトランキング

主役に踊り出たWindowsアプリケーション

レポート 価格

パソコンから定価が消える！広がるオープン価格制度

→アップルの次はIBM

○経済誌 4月号

特集 C/Sシステム構築法

問題解決の道筋を先駆ユーザから学ぶ

→周辺、ミドルウェアを含めて製品が充実し、C/Sシステムが構築しやすくなったが、先駆者の残してくれた問題解決法を活用するようにすることが重要

第I部 アプローチ法

問題解決のためにはキーパーソンの努力が欠かせない

→問題解決には、原因を率先して追求し、解決法を探る努力をするキーパーソンの存在が不可欠

第II部 基本

部門システムに向く2階層C/S、そのハードルの乗り越え方を探る

→ホスト系の階層とサーバを中心としたエンドユーザ対応の階層に分けてシステムを構築する

第III部 発展

まだ難しい広域ネットワーク、設計段階での対策が必要

→広域への対処を設計段階で行い、広域へ流すデータ量などを調整検討

シラボ評価 新プロトコルNLS Pの効果

NetWareサーバの性能と信頼性が向上する

→Novellが94年に発表した新プロトコルNLS Pはスイッチングハブとの組み合わせで効果が高い

ホーパナーバイ Windows 対応電子メール
外部ネットとの接続と管理機能がポイント
メール自体の大きな差はない

○ASCII 5月号

- 特集 これでわかった！パソコン新語大辞典
→ICU、ATAPIなど最近登場した言葉の特集
- 特集 大容量ハードディスクのつなぎ方が良くわかる
最新ギガストレージ接続ガイド
→インターフェースやドライブユニットそれぞれの特徴や選び方、実際の接続のしかたなどを解説
- 特別企画 日本語OS / 2 Warpのすべて
→日本語独自の機能とボーナスパックの内容について
- 最新プロダクトレビュー Kid's Computer World
→マイクロソフトの製品を中心に子供向けパソコン環境をレポート

○SUPER ASCII 5月号

- 特集 誕生PC95
PC互換機からPC95へ、
Windows 95時代の標準PC仕様のすべて
→IBMのPCから始まったハード中心のMS-DOSは、Windows 95でハードウェアの仕様を策定するようなソフト中心へと変わってきている
- 特集 OS / 2 Warp V3 日本語版
本格派32bit OSの世界
- 特集 ついにベールを脱いだP6
→Pentiumの次にくるCPU
- Review Over 4×CD-ROMドライブ11機種
→4倍速以上のCD-ROMドライブの比較

○月刊PC 5月号

- 特集 知っておきたい最新パソコンの中身と原理
パソコンシステム大解剖図鑑
→あまり見る事の無いパソコンの中身
- ・デスクトップパソコン
 - ・ノートパソコン
 - ・マザーボード
 - ・カラープリンタ
 - ・ハードディスク
 - ・CD-ROMドライブ

- ・キーボード&マウス
- ・グラフィックアクセラレータ
- ・モデム

特集 ビデオ通信の時代がやってきた！

テレビ会議、ビデオオンデマンド、PC用ビデオカメラなどのパソコン新トレンド

特集 新98FELLOWを低価格で実用マシンに
最新98セットアップ！

BEST BUY あらゆる用途に応じられ、

なおかつ使える最強のWindowsワープロは？

最新多機能Windowsワープロ5製品を徹底比較する！

○DOS/V magazine 5 / 1日号

特集 DOS / Windowsの疑問

Overview なぜSYSEDITなのか？

→SYSEDITはWindowsのSYSTEMディレクトリにある「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」と「WIN.INI」と「SYSTEM.INI」を一度に読み込んで編集スタンバイにするエディタ

Part1 DOSとWindowsのメモリ管理

- ・拡張メモリの種類と役割
- ・システムリソースとコンベンショナルメモリ
- ・タダでできるパワーアップ
- ・PC DOS J7.0 / Vではこう変わる

Part2 WindowsのルックスとINIファイル

- ・プロファイルの約束事
- ・フォントから始めるデスクトップの快適化

Part3 快適環境のためのQ&A

特集 PCのパワーマネージメントを考える

- ・ハードウェアのメカニズム
- ・PowerPCのPMを考える
- ・外部デバイスの持つPM機能
- ・ソフトウェアのメカニズム